

原作脚色者  
監督者  
撮影者

忍亭の女将お島  
板場 苦助  
金比羅丸船長寅吉  
その父 辰造  
老水兵 伊勢松  
浮浪人 義輔  
解説——「帝キネ解散當時撮影進行中に屬してゐる  
ので、其の後立石駒吉氏が腹心の配下を率ゐて東  
邦映画製作所を創立していらした同完成もい  
ふべき映畫である。上田紀夫氏の帝キネに残した  
「黒百合の花」に次ぐ監督作品である。  
略筋——湖淵の香り高き海岸に起つた物語。數  
奇な運命に弄ばれ落ちの底に沈んだら島にもそ  
の若者からいひもなげないし愛人の義輔の事を忘れる事  
は出来なかつた。現在では金比羅丸船長寅吉の  
金力と暴力に強ひられて妻にはなつてゐるもの  
争。絶縁の彼等の家庭に幸福のあらへ答へはな  
つた。彼女は惜みきれの愛着から寅吉が彼女な  
己が船に乗せたがお島の心は忙いないのでみか義  
輔の事を夫に打明けて寧ろ死を選び度がつた。  
絶望の極ふこと立て出でた甲板で寅吉は大勢の水夫  
達に殴まされ込んで由をきいて同情快。彼に同  
船名許した。併しその浮浪人お島の戀人義輔  
の成れの果てによつた事を知つて彼は憤怒に燃  
にて飛びかゝつたが、殆んど抵抗力を失つた義  
輔の傍邊に急所を極められて倒れて男  
の懐に隠れつけられた時、哀れにも失神した義輔  
は彼をもみさめる力がなかつた。船は無心  
に静けさ海上を行く……。